



和光病院 だより

Vol . 1



患者さんのニーズに合わせたサービスを



院長 齋藤 正彦

和光病院は、このたび、開設5周年を無事迎えることができました。これも一重に、皆様方の温かいご支援、ご理解の賜と、職員一同心から御礼申し上げます。

さて、2005年、我が国の総人口は戦後初めて前年比減少を示しましたが、65歳以上の高齢人口は増加を続け、過去最高を更新しました。全人口に占める高齢人口の割合も、初めて20%を超えました。65歳以上の高齢人口は今後増加を続け、2050年には全人口の35%を超えると予測されています。特に、今後は後期高齢者と呼ばれる75歳以上の人口の増加が著しく、2016年には65歳から74歳の前期高齢者人口を後期高齢者人口が上回るようになると言われています。和光病院は、認知症の治療を目的とした病院ですが、認知症の患者数は、後期高齢者の人口と強く連動します。認知症という病気の発症リスクが、加齢とともに加速度的に高くなるからです。現在、我が国には120万人から150万人にのぼる認知症の患者さんがいるといわれています。年齢階級別人口に対する有病率を見てみると、65歳以上

では6〜7%ですが、85歳以上では25〜30%に跳ね上がります。すなわち、今後、総人口の伸びが止まり、就労可能世代の人口は漸減するにもかかわらず、介護を必要とする認知症患者さんの数は、50年以上にわたって増加し続けるのです。もちろん、アルツハイマー病を初めとする認知症の原因疾患の治療に関する研究は世界中で進んでいます。認知症を引き起こす病気の多くは、加齢のメカニズムと複雑に絡み合っており、こうした研究によって、現在の認知症の有病率が劇的に低下すると考えるのは楽観的に過ぎます。

こうした状況下で高齢者の医療、介護費用の増大を抑制するために、昨年からは、高齢者の医療保険制度、介護保険制度に様々な変化が起こっていることはご承知の通りです。昨年度から、高収入の高齢者の医療費自己負担が2割から3割に引き上げられたのに続き、来年度からは、現在1割負担の方の自己負担も2割に引き上げられる事が決まっています。高齢者医療の分野では、和光病院のような長期に入院を受け

入れる病院の医療費削減が規定の方針となっており、13万床ある介護保険型の療養病床は2011年度末までに全廃、医療型療養病床は現在25万床ありますが、2012年度までに15万床に削減されます。

我が国の高齢者医療、介護を巡る経済環境は、サービスを利用する方々にとっても、私たちサービスを提供する側にとっても日に日に厳しさを増しています。医療や介護は、収入や資産の多寡で差別があつてはならない、私たちみんなの公共の資産だと、私は思います。

医療制度、介護制度を守り、育てていくのは私たちの社会を構成する全ての人の責任です。私たちはこれからも、私たちの医療サービスを必要としていらっしゃる方々のために、働き続けたいと思っております。制度に合わせるのではなく、患者さんのニーズに合わせたサービスを展開したいと思っています。サービスを利用して頂く皆様方にも、応分の責任を負って頂き、みんなのために、持続可能なよりよい医療、介護制度を作っていきたいと思っております。

「皆様に支えられ・そしてこれからも」



看護部長 田代 睦江

和光病院は平成14年4月に認知症高齢者専門の病院として開院いたしました。月日が経つのは早いもので今年で丸5年が過ぎました。この間ご家族や地域の皆様方に支えられて多くの患者さんとの出会いがあり、そして患者さんの笑顔に元氣と優しさを頂くことができ心から感謝いたします。

当院では穏やかな入院生活を送っていただくための工夫をハード面とケアに活かしています。広々とした療養空間は病院と言うより施設のような印象があり、患者さんは自宅にいらつしやるような服装で過ごしていただいています。1階には愛犬キング、7階の屋上庭園には四季折々に花が咲き、季節の風を受けて風車が回り、秋には夕焼けの秩父連山を、そして冬の寒い朝には雪化粧の富士山を望むことができます。

これからも身体的なケアはもちろんのこと、患者さんお一人お一人の人生に配慮した心優しいケアをおこなっていききたいと思えます。豊かで安らぎに満ちた時を過ごしていただき「和光病院に入院して良かった・」と患者さんやご家族から思っていただけるよう、職員一同心を合わせて頑張っていきたいと思えます。

ご指導ご鞭撻宜しくお願い申し上げます。

「新米事務長ですがよろしくお願い致します」



事務長 町野 譲

本年3月1日より当院事務長として就任いたしました町野譲です。私は、昭和52年、同じ医療法人「翠会」の成増厚生病院に入職し、経理、総務の業務にちようど30年就いておりました。看護・介護の実践はありませんし、高齢者の方々を対象とした病院勤務は初めてですが、30年間病院事務局で勤めてきました経験を生かして、地域の医療・看護・介護を行う医療機関で事務長としての自分の役割を果たしていきたいと思っております。

現在、当院は2階から6階までの5病棟285床すべてが認知症疾患治療病棟という、認知症に特化した医療機関であり、「老人性認知症疾患治療病棟」の認可を受けております。

これからもめまぐるしく変貌していくであろう、医療行政情勢をしっかりと捕らえ、次から次へと生じる課題に対して、「翠会」グループとの連携を強化し、当院スタッフとともに歩み、新米ではありますが事務長として、成長していく所存です。

地域の方々をはじめ、皆様にはご指導ご鞭撻をいただきながら今後とも「和光病院」をよろしくお願い申し上げます。

以下自己紹介です。

福岡県立小倉高校から九州大学経済学部卒
53歳 妻・子1人 血液型B・星座しし座・
特技は盆踊りと餅つき・趣味は海での船釣りと釣った魚を料理して食べることに。釣り同行者募集中です。

ひとりひとりにふさわしい診療を

医局紹介



常勤医師

非常勤医師

斎藤院長（精） 白濱副院長（内） 長坂（精） 臼井（精）
浅見診技部長（内） 富塚（院長秘書）

現在 斎藤院長をはじめ常勤医師4名、非常勤医師5名で日々の病棟、外来診療を行っております。入院治療に関しましては、精神科医師、内科医師、さらに患者さんの症状により整形外科、皮膚科などの協力を得ながら行なっております。色々としじてくる問題の背景には医療技術や薬剤使用などの要素もあり、その都度、ご本人を含めご家族などとも相談しながら、ひとりひとりにふさわしい診療を進めたいと思っております。

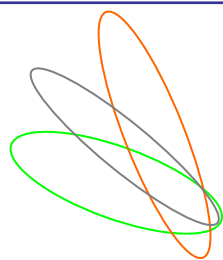


非常勤医師

宮本（精） 高木（精） 犬尾（内） 皆川（内）

※（精）は精神科医師の略です。
（内）は内科医師の略です。

外来に関しましては、精神科医師が中心となり主に認知症の診断、治療及び種々の相談などに対応して行っております。入院患者さんの休日及び夜間診療につきましても、当院医師に加え大学病院や他の病院などの医師の協力を得ながら、継続的に行なっております。今後とも斎藤院長をはじめ全員で協力しながら医局運営を進めて参りますのでよろしくお願いいたします。なお、今年度中に常勤医師2名を増員の予定であります。



地域に支えられ

地域とともに

和光病院市民講座の開催

6月29日（金）、和光市中央公民館にて第1回和光病院市民講座を開催しました。

今回のテーマは、『認知症とはどういう病気か』ということについて、斎藤院長による講演を行いました。和光市近隣にお住まいの方を中心に当初、定員100名様を予定していましたが、当日は121名様のご参加をいただき盛会となり、近年の認知症への関心の高さをうかがうことが出来ました。

認知症について、より理解を深めていただき、また認知症になっても自分らしい生き方を選択するため、”病気に早く気づき、早めに対応をすることが大切”ということを感じていただけたのではないのでしょうか。

大変解りやすかったとのこと好評をいただき、今後も地域の皆様のお役に立てる講座を企画していきたいと考えています。



齋藤院長がNHKに出演

NHKの朝の人情情報番組、「生活ほっとモーニング」に齋藤院長が3月と5月の2回出演いたしました。

1回目は「もしも明日・・・家族が認知症になったら」というタイトルでゲストに柴田理恵さんを迎え、認知症の介護をテーマに放送されました。

2回目は「これからあなたの方まで若年認知症と向き合う」というタイトルで若年認知症を、家族や社会がどのように受け入れていくのかを、見つけていきました。ゲストは増田明美さんでした。齋藤院長が番組の中で、専門家としてわかりやすく解説し、アドバイスをしております。

放送後は当院のホームページへのアクセス件数もぐっと増え、和光病院への期待は高まっていると実感しました。



園児交流会



和光市の「にいくら保育園」4歳児クラスの園児と、当院にご入院されている患者さんとの交流会は4年目を迎えます。交流会は毎月第2・第4木曜日の午前10時半～11時頃に行っており、毎回、ひとつの病棟を園児が訪問します。保育園児たちは50分かけて歩いてきますが、みんな元気いっぴいです。一所懸命覚えてきた「ふるさと」を合唱したり、おゆうぎをしたり、患者さんと一緒に折り紙を折ったり。そんな園児たちを遠くから目を細めて眺めている方、「何歳なの？」とやさしく話しかける方、何くれとなく世話を焼く方・・・いつもはなかなか見られない患者さんの表情に出会います。帰り際に「また来るね」と手を振る園児にわざわざ近づいて、「おばあちゃんのこと、忘れるなやー！」と力強く手を振り返した方もありました。世代を越えたところの交流が見られた瞬間でした。炎天下の中、園児たちが長い距離を歩いてくるのは大変なので、7月の第2木曜日で前期の交流会は終了し、9月後半か

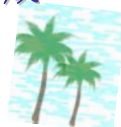
ら再開いたします。一回り大きくなった園児たちが元気に病院にやってくるのが今から楽しみです。

学生実習の受け入れ

和光病院では認知症の正しい理解とケアの方法、認知症のマイナスイメージの払拭など、和光病院発信の一助としてヘルパー実習生・看護学生・認定看護師・作業療法士の学生などの実習を受け入れていきます。年間にすると多くの実習生が来ていますが、実習生の感想や評価を私たちの学びとしていきます。昨年から山形の中学生の修学旅行や、地元の高校・中学生の職場体験も受け入れていきます。特に学生服姿の中学生の訪問は患者さんにとってとても嬉しい時間のようです。和光病院で高齢の患者さんと触れ合うことで、地域の一人暮らしのお年寄りに小中学生が声を掛けたり、みんなが安心して暮らせる社会であると良いですね・・・心のバリアフリーは和光から・・・



ハワイアンバンド結成



昨年の11月、白濱副院長(スチールギター)を中心に落合看護師(エレキギター)と岡田看護師(エレキギター)の3人がハワイアンバンドWacoh Blue Marinaを結成しました。落合看護師は10年間ほど音楽関係の仕事に携わった後に看護師の資格を取った経歴の持ち主、岡田看護師は今でも都内某所でライブをやっている現役のミュージシャン、白濱副院長は大学時代にハワイアンバンドにいたそうです。そしてもう1人、当病院の患者さんでかつてアマチュアバンドでウクレレを弾いていた仲間がいます。というわけで、カルテットで各病棟等で演奏しております。メンバーからのメッセージ、「マラカスやウクレレ、ヴォーカル、フラダンスなど、一緒に楽しみませんか?」





劇団四季の出身で数々の舞台、映画、テレビドラマで活躍された木内みどりさんによる朗読会を、毎月、病院7階の多目的ホールで開催しています。この朗読会は、木内さんのご厚意による全くのボランティアです。6月13日にその第三回が開催されました。回を重ねるに連れて、参加される患者さんもしラックスされ、木内さんと掛け合いの詩の朗読を楽しむ方もあります。認知症という病気は、自分の気持ちを表現する能力を損ないます。朗読という専門家の表現に触れ、そのパフォーマンスに加わることは、こうした不十分な自己表現を補うために重要な効果を持っています。今後も、定期的に開催の予定です。ご家族の皆様のご参加もお待ちしています。



和光病院では毎月1回、17時30分から約一時間半「楽しく歌う会」を開催しています。「楽しく歌う会」は患者さん方と楽しく歌うために、まず職員が大きな声で歌おう！そしてストレス解消を！と4月から声楽家の小林浩先生のご指導で始まりました。懐かしい歌に心が安らぎ、時には歌詞の込められた意味を知り、歌い継がれた時代に想いを廻らしています。「森のくまさん」の輪唱や季節の歌・懐かしい歌などど・楽しい時間におながが空くのも忘れて大きな声で歌っています。皆さんも一緒に歌ってみませんか？



これから行われる行事のご案内

和光病院も5周年を迎え、日ごろより和光病院をご利用いただいている入院患者ご家族様に、和光病院について、また認知症について、より一層のご理解とご協力をいただけるよう家族懇談会を左記の日程で開催いたします。また、第2部では、ご家族様同士の交流を深めていただけるよう懇談会を予定しております。ご参加いただき、日ごろのご意見やご質問などお寄せください。

【日時】

平成19年7月21日(土)

第1部 13時30分より

第2部 15時より

【場所】

和光病院7階多目的ホール



今年も例年通り8月4日(土曜日19時〜20時45分)に荒川土手において「2007いたばし花火大会(第49回)」が挙行されます。和光病院、特に各階のダイルームからはきれいな花火が手に取るように眺められます。家族の皆様方も患者さん達と一緒に素敵な夏の風物詩「花火」を楽しみませんか。お待ちしております。

また、職員、患者、家族の方々参加の「秋祭り」を計画しております。10月下旬頃を予定しておりますが、詳細が決まり次第、あらためてアナウンス致します。



回想法

〜豊かな時間を創るために〜

「機械にざらめを入れるとね、ふわふわと綿菓子が出てくるのよ。綿菓子はよく食べました。甘くて、おいしいのよね。」回想法グループの中で、参加者が話し始めました。ふわふわした綿菓子を手にしたときのうれしさや、舌にじんわりと広がる甘さが、その方の中にいきいきとよみがえったのが感じられました。

回想法は、アメリカの精神科医バトラーによって提唱された、高齢者を対象とした心理療法です。その方の人生の歴史や思い出を、受容的、共感的な聞き手が耳を傾けることで、過去の未解決の葛藤に折り合いをつけたり、「自己」を再構築するのに役立てたりするための技法です。日本では、認知症のグループ療法として、施設や病院などで行われています。当院でも、2年ほど前から3階病棟において、そして、この4月から6階病棟でも実施されています。週に1回、30分程度、6〜8人



ほどの患者さんと2、3名のスタッフで行います。「ふるさとの思い出」「夏に美味しい食べ物」など、懐かしい話や季節を感じられるテーマを選び、想いを賦活させるような刺激物（遊びがテーマならお手玉など）を用いて会を進めます。ゆつたりと穏やかな雰囲気の中で、同世代の者同士にしか分かれ合えない想いを語り、気持ちを楽しみ、ときには若いスタッフに教えさすとす。そんな、こころに響く時間です。

回想法グループは、担当の病棟スタッフや臨床心理士を中心に進めています。グループを行って間、回想法に参加しない患者さんをサポートするためには作業療法士や病棟スタッフの協力が不可欠です。患者さんに豊かな時間を味わっていただくため、病棟全体で取り組んでいる試みです。

臨床心理士 落合 真弓

和光病院のこれから

〜院長から職員へのメッセージ〜

縁あって和光病院の院長としてお招き頂いてから9ヶ月になりました。老人医療は、現在、先行きの見えない霧の中に立たされています。経営環境は日増しに厳しさを増しています。こういう状況の下で、私は、猫の目のように変わる制度に振り回される医療ではなく、患者さんのニーズに合わせた医療を提供する、という一事を原則に病院を運営したいと思っています。もちろん、院長として病院の経営基盤を安定させ、職員の生活を保障することは忘れてはならない責務です。良いスタッフが安心して働ける環境がなければ、良いサービスを安定して提供し続けることはできません。

病院の仕事は、医療保険によって支えられたサービスです。医療保険は国民の健康を守るための公の制度です。患者さんが支払う金額は必要な金額のほんの一部に過ぎず、残りは国民みんなが負担しています。最も必要とする人に、必要十分なサービスを提供す

るために、サービスを提供する側に公正さが求められるばかりでなく、サービスを受ける側にも制度を守るための自制が必要です。経営の側面から見ると、病院のような労働集約的な企業では、コスト削減は人件費削減に直結します。診療報酬の総額が決まっているとき、一人一人の給与を減らさずに、サービスの量を増やすためには一人一人の労働生産性を高める以外方法がありません。病院の発展のためには、職員一人一人が自分自身の能力を高めると同時に、組織全体のことを考えて行動しようとする気持ちが不可欠です。





※表紙・裏表紙の写真は神戸観光壁紙写真集 (<http://kobe-mari.maxs.jp/>) より引用しています。兵庫県南光町の向日葵畑。

老人性認知症疾患専門病院 285床



医療法人社団翠会 和光病院

編集・発行：和光病院 広報委員会

発行日：平成19年 7月10日(火)

〒351-0111 埼玉県和光市新倉5-19-7

TEL 048(450)3311

FAX 048(466)0811

URL <http://www.wako-hos.jp>

E-mail info@wako-hos.jp

「編集後記」

鬱陶しい梅雨も明け、暑い夏がいよいよ始まり
ました。読者の皆様には益々ご健勝のこととお慶
び申し上げます。

当病院は、本年4月に節目の創立5周年を迎え
ました。これも偏に、開設以来、職員の頑張り
当然のことですが、多くの患者さんや家族の皆様
方、及び地域やボランティアの皆様方のご理解と
ご協力があったることと深く感謝致しております。
これを機に、私たちは病院の現況や将来に向
けての展望などの種々の情報を職員や来院・来訪
者の方々をはじめ、地域や関係各位の方々にも提
供する必要性を認識し、広報誌「和光病院だより」
を発行することになりました。当面は年2回の発
行を目標にしております。何卒本誌を育て上げて
頂きたいと思っております。

読者の皆さん、猛暑に負けずに頑張りましょう！